

第1回 小郡市総合振興計画審議会 要録

- 日 時 平成27年3月31日(火) 午後1時30分～午後3時30分
- 会 場 小郡市役所西別館 3階会議室
- 議 題 (1) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画策定基本方針・スケジュールについて
(2) 基礎調査内容報告について
① 市民・学生アンケート調査について
② 市民ワークショップについて
(3) 前期基本計画の施策に関する意見交換
(4) その他
① 次回審議会の開催時期について

議事詳細

開会

- (1) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画策定基本方針・スケジュールについて
(事務局から、後期計画策定の目的や手順、スケジュールについて説明)

	(説明概要) 策定体制や手順と、平成26年7月から平成28年3月までのスケジュールの説明を行った。
委 員	策定体制について、市長、副市長、教育長、各部長及び部長相当職の組織図の提示をお願いしたい。 また、(審議に関連する事項の)担当部長をこの審議会の場に呼んでヒアリングを行うことは可能か。
事務局	(組織図の提示について) 承知しました。 (ヒアリングについて) 必要に応じ、調整を行います。

- (2) 基礎調査内容報告について
(事務局から、市民・学生アンケート調査結果について説明)

(説明概要)

基礎調査として行った市民アンケート、小学生アンケート、中学生アンケートの結果について概要の説明を行った。

委員 資料が多いため、資料に通し番号と、パンチで穴を開けていただきたい。

委員 アンケートについては、どこの自治体もこういった結果になる。施策とコストの関係性を明記したアンケートならば、また違った結果にもなるだろう。あくまでもこれは参考値ということでとらえている。

「あなたは小郡市の発展に対し、どんな役割を負えると思いますか」というような設問があれば、協働意識向上につながっていくかもしれない。

委員 市民アンケート結果 48 頁（地域活動へ特に参加していない、参加したくないの市民が約 3 割で、前期計画時から改善されていないこと）について、第 5 次総合振興計画当初、市民との協働は大きな目標だったにもかかわらず改善されていない。

また市民アンケート結果 50 頁（小郡市の今後の行財政運営に必要な対処）について、「職員の意識改革と、意欲と能力にあふれた人材の育成に努めるべき」が 41.3%もあることは、重く受け止めてほしい。このことについてどのように具体化していくのか、いずれ意見（考え）を伺いたい。

委員 第 5 次総合振興計画に掲げた小郡市の将来像は「人が輝き、笑顔あふれる快適緑園都市・おごおり」であるが、まちづくりのビジョンは見えない。人口減少やインフラ、社会保障と問題は残っている。財源が限られている中で一生懸命考えていかないといけない。とにかく人が集まるまちにしていけないといけない。

委員 小学生アンケートはとてもよいと思う。商工会でこの結果を公開してもよいだろうか。商工会の取組みに役立てたいと思う。

事務局 前期計画策定の際に、他自治体の将来像を調べました。歴史・文化的なものやハード的なものを将来像にしているものが見られたが、「人が住む」ことに重点を置いた将来像にしたいと思い、この理念としました。

職員の意識改革が必要という回答が多かった点については、重く受け止めたいと思っています。

委員 厳しい意見も出たが、このようなアンケートでは「住みやすい」という

回答が多く出る傾向があるにせよ、「小郡市が住みやすい」という回答が多く出たことは、認識してもいいのではないだろうか。高齢化の問題などもあるが、私は小郡市はまだ現状維持で頑張っているという見方もできると思う。このような見方から小郡市のいいところがいくつかでてくるのでは。

委員 国は2020年にプライマリーバランスを黒字化すると言っているが、私は厳しいと思っている。それは地方財政も関連する話で、国は厳しいものを自治体に投げかけてきている。

次回審議会では、小郡市の債務や税収など財政状況について資料をだしてもらいたい。

委員 中学生アンケートで、将来市外に住みたいという回答が26%ほどだがこれはある意味、中学生の自然な反応だと思う。

着目したのはボランティアに関する設問の回答で、今、ボランティアのパスポートができて、参加して地域の中で認められて子どもは成功体験を重ねてきている。これから、特に中学生を防災やまちの夢HANABIなどに組み込むようなシステムができればと思う。このことが、将来大人の地域活動の参加に対する意識の変化につながっていくと思う。

委員 (体制の見直しなど) 予算を使わなくともできることはあると思う。

アンケートの、市の住みよさに関する回答については、他市との比較ができるといいかもしれない。

(事務局から、市民ワークショップについて説明)

(説明概要)

市民ワークショップを2日に分けて実施し、第1回はまちづくり全体について、第2回は個別の課題について行ったことや、代表的な意見などを説明した。

委員 ワークショップは5つの分野に分けて議論しているが、どの意見も分野横断的な対応が必要なものと思われる。市役所は縦割り体制が課題であり、分野横断的な対応は今後どのくらい意識されているのか。

事務局 総合振興計画策定委員会には全課長が入っており、それぞれの課題に対して原案をつくっていく。また、重要な課題については、連絡会議やワー

キンググループを設け、組織横断的な議論を行っている。

委員 市を変えていくためには市の体制も重要で、次回、その体制について説明してもらいたい。図示などでもよい。

事務局 承知した。庁内にどのような組織があるか、お見せしたいと思う。

委員 ぜひお願いしたい。前期基本計画の成果指標を見るに、どうも連携が弱いように感じられる。

委員 ワークショップの、参加者はどのような年齢構成だったのか。

事務局 20～30歳代は、全体の10%ほどでした。

委員 アンケートもワークショップも年配の方が多く、若い方の意見が反映されていないのではないかと思う。ワークショップの際には、若い方のいる団体に声をかけるなど、工夫がいるのではないかと思う。

委員 ワークショップ自体は、小郡市では画期的なことだと思っている。そうした指摘もふまえながら継続して行ってほしい。

また、総合振興計画は「総合」と冠しているが、総花ではなく、何か輝くものを掲げながら、市民に成功体験を与えていくことが大事だと思っている。

(3) 前期計画の施策についての意見交換

(事務局から、前期計画の進捗について説明)

(説明概要)

前期計画施策の指標や達成状況について説明を行った。

委員 本日の資料は公開可能か。

事務局 施策評価シートについては、現在、公開中です。その他資料についてもいずれも公開可能です。

委員 達成率の低い項目については、後期計画策定にあたりなぜ低いのか原因を明らかにする必要がある。アンケート結果やワークショップを受け、新

しい指標設定を加える必要がないかについても、検証が必要である。また、計画期間1、2年で100%の達成にいたったものについては、もう少し踏みこんだ質の高い指標設定の検討も必要である。そして、指標設定の際には、市民サイドに立った視点で指標を設定する必要がある。

委員 いくつか施策を選んで、市民と行政両面の指標を設けてはどうか。

(4) その他

(各委員の意見)

委員 アンケートの中で、職員の意識改革を望む声が多かったが、小郡市役所の窓口は臨時職員が多く、そうした待遇の方々まで含めて意識改革を望むのも難しいと思う。何か私たちができることを提案できればと思う。

委員 私は市の現状に危機感を持っており、小郡市の人口はあと2,000人減少すればすべてのマーケットは縮小すると思っている。若い人を吸引していきけるまちになっていくための方策を、この会議で議論しなければならない。

委員 子どもが住みたいと思うまちにできたらと思っている。若い世代の方々にとっては、小郡市はやはりベッドタウンで、雇用の場が少ない。

あすてらすなどが充実しているように見えるが、他のまちの同様の施設や事業などに人は流れていっている。

交通の便も問題で、車がない人にとって、コミュニティバスはちょっと買い物に行くような便がない。100円の運賃から、150円に増額でもいいから増便してほしいという声もある。こうした問題は、以前より声があったと思うが、改善がなかなか感じられない。

委員 市民の方も介護の問題については大いに関心があると思う。介護事業に関する最近の法改正で、介護予防、生活支援サービス事業、更には在宅医療と介護の連携や認知症対策などが地域支援事業として市町村の独自事業に位置付けられることとなった。これらの事業について、市の方針や進捗状況を教えて頂ければと思う。

委員 若者や子育て世代がまちの現状や課題を知らないというのは問題があると思う。今後もこのような場に参加し、同世代にしっかりと伝え、また、同世代の意見を吸い上げ、このような場に伝えていきたい。

委員 施策評価シートで、認知症サポーター講座受講者数は100%を達成しているが、実態は高齢者が多く、小さな子ども世代にも学んでほしいと思う。いきいきサロンも目標達成はしているが、そもそもの目標値が少ないと思う。福祉員などの制度を充実させ、もっと伸ばしていくべきと思う。

委員 就農者の高齢化と農業従事者数の半減、所得の減少は深刻になってきており、小郡市の農業生産額は40億円を切っている。指標とはなっていないが、新規就農者のサポートをどのように行っていくかは課題である。地元の地産地消の点から、道の駅構想などについてもこの計画で今後入れられるものについては進めていただきたい。

委員 子どもが育つよう学校教育はしっかり行われていると思うが、近年の社会状況の中、増々地域・家庭との連携が重要になってきていると思う。また、学校規模の差が大きく、大規模校は（ハード面の問題から）学習活動・運動等、十分に出来にくい状況が続いている。
家庭の経済面での格差も出てきている。

委員 様々な面で格差というものが出てきはじめている。小郡市の状況をみると、今しかできないことがあるはずである。
次回の会議では、事務局においては、小郡市の財政、今後の人口動態、またこの会議を報告した庁議の内容、以上3点を提示いただきたい。

(会議の閉会にあたり総務部長より挨拶。また、市役所の意思決定のあり方について説明)

閉会